

文の京「12時間リレー・3時間マラソン」

卒業生・院生がエイド班で大活躍

3回目の開催にして、今年にかけて行われました。開や文京区の人気恒例行事となった「12時間リレー・3時間マラソン」(主催：NPO法人小石川)。今年は10月15日夕方から16日の朝



疲れ蓄積の身体に心を込めて施術



主催者に義援金を手渡す福井所長・教授(中央左)スタッフ一同達成感あふれる笑顔が輝く

例年は、大学の保健医療技術学部理学療法学科の学部生を中心としたチームがランナーとして出場。さらに、理学療法士の専門領域を

は本郷・ふじみ野両キャンパスの大学祭と時期が重なってしまい、学部生は出場を辞退。

その思いを受けて、今年エイドステーションで大活躍したのは、本学の卒業生・大学院生(他大学院含む)・教員たち約20名。理学療法士として病院勤務をしながら大学院に通う近藤崇史さんによると、3時間マ

ラソンは午後9時に終了のため、施術は10時がピーク。12時間マラソンは深夜2時がピークで、エイドステーションはフル活動でした。施術対象は普段から運動しているスポーツマンのため、当日の疲れだけではなく日頃の疲れが蓄積しているケースが多く、会話を

今年、文京学院が区内18大学アに当たるのですが、今年生かしてエイドステーションを設け、出場者の身体ケアに当たると、今年に、理学療法の専門領域を

今回は施術1回につき100円をいただき、270人分27000円+αを義援金として主催者に手渡しました。

文京学院の誠実な取り組みは、今回も文京区・参加ランナーから高く評価され、大成功の事業に貢献しました。